

「文化庁メディア芸術祭20周年企画展—変える力」間もなく開催!!

2016年10月15日(土)–11月6日(日) **入場無料**

メディアが変わり続けた20年。絶えず時代を映してきた作品群が一堂に会する大祭典!

**展示作品・上映プログラム・関連イベントが
決定しました!**

このたび、文化庁メディア芸術祭20周年企画展実行委員会は「文化庁メディア芸術祭20周年企画展—変える力」を2016年10月15日(土)から11月6日(日)までの23日間、東京・千代田区のアーツ千代田 3331を中心に開催します。文化庁メディア芸術祭は、1997年の開催以来、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルとして、国際的な発展を続けています。メディア芸術祭の20周年を記念して開催する本展では、「変化」をキーワードに、過去に審査委員を務めた4人の監修者によって選ばれた、歴代の受賞・審査委員会推薦作品の展示や上映等を行い、変容し続けるメディア芸術の多様な表現を紹介します。本展は、メディア芸術祭の20年の歩みを辿ることで、メディア芸術と、それを取り巻く社会、文化、テクノロジーの「変化」や「流れ」を感じ取ることができる貴重な機会となります。「変化」や「流れ」は作品に内在する力とどのような関係性があるのでしょうか。本展は、作品が持つ「変える力」に焦点を当て、その延長線上に現れるメディア芸術の未来について考察する場となるでしょう。

展示56作品、シアター上映90作品、マンガライブラリー豪華!! 451作品 一挙公開

【メイン会場】：アーツ千代田 3331 [1階 メインギャラリー]

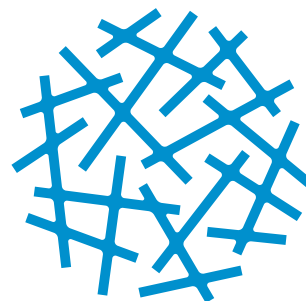
メイン会場のアーツ千代田 3331では、今までの受賞作品をテーマ毎に展示することで、メディア芸術と、それを取り巻く社会、文化、テクノロジーの「変化」や「流れ」を感じ取り、表現の多様性を体験することができる作品展示を行います。

会期：2016年10月15日(土)–11月6日(日) 11:00-19:00

※会期中無休、入場は閉場の30分前まで

展示テーマ：

- 1 情報が生み出す新しい「もの」の形
- 2 身体と物質の再構成
- 3 これからの表現、その組み合わせ
- 4 ゲームというインタラクティブメディア
- 5 ウェブをキャンバスにした多様な表現
- 6 ユーザーの行動が表現へ
- 7 ポスト・インターネット
- 8 ロボットとその周辺にある表現
- 9 デジタルファブリケーションの普及



文化庁
メディア芸術祭
20周年企画展
変える力

JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL
20th Anniversary Exhibition

Power to Change

広報問合せ先

文化庁メディア芸術祭事務局 広報担当[hilo Press内] 鎌倉・佐藤

Email:jmaf20-pr@hilopress.net Tel:03-5577-4792 Fax:03-6369-3596 ※受付時間：平日10時～18時
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-18-11-905

主な展示作品：

第3回デジタルアート（インタラクティブ）部門 大賞

『エンターテインメントロボットAIBO(ERS-110)』

『エンターテインメントロボットAIBO(ERS-110)』開発チーム

第8回アート部門 大賞

『3 minutes²』

Electronic Shadow (Naziha MESTAOUI & Yacine AIT KACI)

第14回アート部門 優秀賞

『NIGHT LESS』

田村 友一郎

第10回マンガ部門 優秀賞

『大奥』

よしなが ふみ

第13回アート部門 大賞

『growth modeling device』

David BOWEN

第3回 デジタルアート（インタラクティブ）部門 大賞

『エンターテインメントロボットAIBO
(ERS-110)』

『エンターテインメントロボット
AIBO(ERS-110)』開発チーム



© 1999 Sony Corporation

第8回 アート部門 大賞

3 minutes²

Electronic Shadow
(Naziha MESTAOUI &
Yacine AIT KACI)



© Electronic Shadow

※展示詳細は、20周年企画展ウェブサイト「展示作品」をご覧ください。

<http://20anniv.j-mediaarts.jp/exhibition-works/>

【上映プログラム】

20年の「変化」をキーワードに様々なプログラムを構成しています。アーツ千代田 3331では、アート部門・デジタルアート（ノンインタラクティブ）部門、エンターテインメント部門の映像作品等を上映します。サテライト会場 UDX THEATERでは、劇場アニメーションや短編アニメーション等をスクリーンで上映します。

会場

メイン会場：アーツ千代田 3331 2016年10月15日（土）－11月6日（日）

サテライト会場：UDX THEATER 2016年10月15日（土）－11月4日（金）の間で10日開催 ※事前申し込み制

1) アート部門・デジタルアート（ノンインタラクティブ）部門映像作品プログラム

2) エンターテインメント部門映像作品プログラム

3) アニメーション部門プログラム

3-a) 長編上映（商業）

「デジタル表現の変化」

「新しいエンターテインメント」

3-b) TVアニメーション ※各作品の第1話を上映するプログラム

「商業とアートの越境」

3-c) 短編アニメーション

「日本の個人作家たちの20年」

「学生たちの20年」

「商業短編の20年」

「海外作品の20年」

第6回 特別賞

ほしのこえ

新海 誠

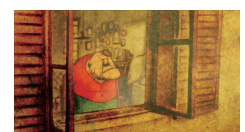


© Makoto Shinkai / CoMix Wave Films

第12回 アニメーション部門 大賞

つみきのいえ

加藤 久仁生



© ROBOT

※上映プログラム詳細・事前申込は、20周年企画展ウェブサイト「上映作品」をご覧ください。

<http://20anniv.j-mediaarts.jp/theater-program/>
UDX THEATERは、全て事前申込制です。

【関連イベント】

会期中、デモンストレーション・トーク・シンポジウム・ワークショップ等多様なプログラムを実施します。
会場は、アーツ千代田 3331、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、国立新美術館、千代田区立日比谷図書文化館です。

会場 アーツ千代田 3331

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]

UDX THEATER

国立新美術館 (10月22日(土)のみ開催)

千代田区立日比谷図書文化館 (10月22日(土)のみ開催)

主なイベント:

10/16(日) 16:00-17:00

ポスト・インターネット時代の「かえるちから」(トーク)

インターネットから生まれてきた活動や表現について、その初期から活躍しつづける作家と、ポスト・インターネット時代の研究者が、「インターネットヤミ市」をモチーフに語り合います。

辛酸 なめ子(マンガ家、コラムニスト)、水野 勝仁(甲南女子大学文学部メディア表現学科講師/アート部門選考委員)

アーツ千代田 3331 [1階 コミュニティスペース]

10/22(土) 14:00-17:00

マンガ史の遠景と近景(シンポジウム)

メディア芸術祭は20年の歴史がありますが、マンガ表現自体はそれよりも遙かに長い歴史を持っています。メディア芸術祭の20年でも「変化」を見ることができますが、江戸時代から見るとより大きな「変化」を見ることができます。江戸からの「変化」とメディア芸術祭の「変化」の両方について紹介することで、マンガ表現のこれまでとこれからを考えるとともに、マンガ史の可能性について語り合います。

清水 勲(漫画・諷刺画研究家)、犬木 加奈子(マンガ家/大阪芸術大学客員教授/マンガ部門審査委員) ほか

千代田区立日比谷図書文化館 [B1階 コンベンションホール]

10/22(土) 15:00-16:30

メディアアートの“ここまで”と“ここから”(シンポジウム)

文化庁メディア芸術祭が開始した1990年代後半は、メディアアートに大きな注目が集まり、世界中でメディアアート関連施設がオープンしはじめた時期にあたります。現在メディアアートの分野で活動するアーティストと、現代アートの状況をよく知る聞き手が、メディアアートに向けられていた期待やその状況が、その後20年間でどのように変化してきたか、今メディアアートには何ができて、何ができていないのか、そして今後の可能性について話し合います。この期間に発展をとげてきたメディアアートの軌跡を歴史化し、展示やアーカイブ化、これからの課題について共有します。

藤幡 正樹(アーティスト/元デジタルアート(インタラクティブ、ノンインタラクティブ)部門審査委員)、小崎 哲哉(ウェブマガジン『REALTOKYO』

『REALKYOTO』発行人兼編集長)、猪子 寿之(チームラボ代表)

国立新美術館 [3階 講堂]

10/23(日) 16:00-17:30

ゲームの遊び方をつくらう(ワークショップ)

既存のスマホゲームをもとに、その「新しい遊び方」を参加者みんなで考えてつくるワークショップです。

飯田 和敏(ゲーム作家/立命館大学映像学部教授/元エンターテインメント部門審査委員)、米光 一成(ゲームデザイナー/エンターテインメント部門審査委員)、中川 大地(評論家/編集者) ほか

アーツ千代田 3331 [1階 コミュニティスペース]

10/28(金) 18:00-19:15

New Style New Artist — アーティストたちの新たな流儀(トーク)

同タイトルのもとに作品を展示している4組の作家が出演し、展示作品を紹介するとともに、クリエイティビティの未来について語り合います。

関口 敦仁(美術家/愛知県立芸術大学教授/元アート部門審査委員)、畠中 実(NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] 主任学芸員)、田崎 祐樹(コンセプト/クリエイティブ・ディレクター/WOW)、中路 琢磨(エクゼクティブディレクター/アートディレクター/WOW)、真鍋 大度(メディアアーティスト/Rhizomatiks Research主宰)、石橋 素(エンジニア、アーティスト/Rhizomatiks Research主宰)、近森 基(アーティスト/plaplaX代表)、笥 康明(メディアアーティスト・研究者/plaplaX/慶應義塾大学准教授)、緒方 壽人(ディレクター/デザインエンジニア/takram)

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] [4階 特設会場]

10/29(土) 13:00-18:00

「パフォーマンスディ01」(デモンストレーション)

これまでの受賞作品・審査委員会推薦作品の美演・パフォーマンスを作者みずからが行います。普段なかなか見ることのできないパフォーマンスをぜひご覧ください。

「ウダー」、「感情纏身装身具」、「Radiologic」 ほか

アーツ千代田 3331 [2階 体育館]

※上記は事前申込制

※イベント詳細は、20周年企画展ウェブサイト「イベント」をご覧ください。 <http://20anniv.j-mediaarts.jp/event/>

【企画展示】サテライト会場：NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] 「New Style New Artist - アーティストたちの新たな流儀」

テクノロジーを駆使しながら新しい方法論を示している4組の作品を展示するとともに、多岐にわたる活動範囲を映像とパネルで紹介します。

概要

近年のメディアアーティストたちの活動スタイルは、新たな方法論を確立していることが見て取れます。アート、デザイン、エンターテインメントを自由に横断し、時にはクライアントワークを、時にはアート領域での表現活動をしています。また、個人ではなく、仲間たちとプロダクションを設立し活動しているのも特徴です。このような活動の広がりを「表現の流儀」とする新しいアーティストたちの登場は、メディア芸術祭がスタートした1990年代後半から顕著になってきました。そうした新しい作り手たちの作品群をピックアップして紹介します。

会期：2016年10月15日(土) - 11月6日(土) 11:00-18:00 ※月曜休館、入場は閉館の30分前まで

出展者予定(設立年/メディア芸術祭初入選等)

1. WOW(1997/2009) <http://www.w0w.co.jp>
東京の夜に生まれ、暗闇から現れる星屑のような美しい街の断片を眺めながら浮遊する、全天球型モーショングラフィックス作品を、ヘッドマウントディスプレイとドーム型スクリーンを用いて展示します。
2. plaplax(2004/1997 近森基として受賞) <http://www.plaplax.com>
1997年に制作され、第1回文化庁メディア芸術祭の大賞を受賞したインスタレーション作品『KAGE』を大型化した『KAGE 2016』を展示します。
3. ライゾマティクス(2006/2007) <http://rhizomatiks.com/>
設立10周年を迎えたライゾマティクスが手がけた数々の作品の中から、主に過去の文化庁メディア芸術祭で受賞・選出された作品のアーカイブ展示を行います。
4. takram(2006/2008) <http://www.takram.com/>
2016年9月17日～25日にロンドンで開催されたtakramによる展示「Scenes Unseen」で発表された作品の中から、7つの作品を展示します。

第1回 デジタルアート
(インタラクティブ)部門 大賞

KAGE 近森基



© plaplax

開催概要

会期 2016年10月15日(土)～11月6日(日)

会場 **メイン会場：** アーツ千代田 3331 (東京都千代田区外神田6丁目11-14)
●開場時間＝11:00～19:00 ※入場は閉場の30分前まで
●会期中無休

サテライト会場：NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] (東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー4階)
UDX THEATER (東京都千代田区外神田 4-14-1 秋葉原UDX 4階)
国立新美術館 (東京都港区六本木7-22-2)
千代田区立日比谷図書文化館 (東京都千代田区日比谷公園1-4)
※開館時間、休館日は会場によって異なります。

入場料 無料 ※一部、要事前申込

主催 文化庁メディア芸術祭20周年企画展実行委員会

協力 NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、アーツ千代田 3331、秋葉原電気街振興会

広報協力 1UP情報局、2k540 AKI-OKA ARTISAN、Akiba TMO、Akiba.TV、ANA EXPERIENCE JAPAN、BEACON AKIBA、BEACON KYOTO、J-WAVE、TOKYO FM、アキバトリム、アトレ秋葉原1、マーチエキュート神田万世橋、秋葉原案内所

企画・運営 CG-ARTS(公益財団法人画像情報教育振興協会)

問合せ先

文化庁メディア芸術祭20周年企画展インフォメーション Tel:03-5459-4668 ※受付時間:9時～20時

文化庁メディア芸術祭

総合ウェブサイト <http://j-mediaarts.jp>

20周年企画展ウェブサイト <http://20anniv.j-mediaarts.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/JapanMediaArtsFestival>

Twitter @JMediaArtsFes